

一問一答 鍵山相談役への質問

【品格を高めるには】

自分の品格を高めようとしたら、自分の得にならないことをする。自分の得にならないことをやつたときに自分の品格は上がつていくんですね。自分の得になることばかりを求めている人は品格が低いです。世の中を見回しても相当の学歴、知識、肩書き、技能を身につけていて、にもかかわらず、その技能を全部自分の得になることにしか使わない人はいっぱいいますよね。そういう人はどんな大学を出ていようが何をしても、人間の品格としては低いです。一方社会の片隅にあって誰の目にも触れない、日の当たらないところにいながらいつも自分の得にならないことを引き受け、コツコツとやつている。そういう人は立派な人格を備えていると思います。実際に簡単なことが分かれ道ですね。

【日本を立て直すための心構え】

「日本は将来どうなるでしようか」「世界はどうなるでしようか」とよくご質問を受けることがあります。未来というのは想像するものじゃなくて、「今日どうするか」ということなんです。今日一人ひとりがどう生きていいくかによつて未来は変わつてくるので、今日のことを疎かにして未来のこととを論じても始まらないんです。自分の望む未来を作り上げるために、今日、明日、どういう生き方をしていくか、それによつて未来は良くなり悪くなると思います。

ですから私は今日一日ぐらいという考えでいたら未来は悪くなりまし、いや今日一日、一日を未来のために良くしていこうといふことであれば、間違いなく未来は良くなつていきます。よく私どもの会社にいろんな方が研修に来られて、「目から鱗が落ちました」と言つて帰る方が多くいらっしゃいますが、「心の鱗」も落としていただきたい。必ず日本は良くなつていきます。

【三つの幸せ】

これは私が教えていただきました。「何かもらう幸せ」これは有り難いです。「いつも何かをしてもらう幸せ」これもいいですけど、これは幼児の幸せです。「できる幸せ」今までできなかつたことができるようになる幸せ。ここで止まつてはいけない。「してあげる幸せ」人に何かをしてあげる幸運。ここに喜びを感じる人生でなければいけない。これは年齢と共にこうなるのかというと、そうはなりません。残念ながら私と同じような年の人でも、あるいは私がいっぱいいます。自分ができることで幸せを感じている人もいっぱいいます。ここまでいく人は割と少ない。しかし、子どもでもこの領域に入つている人もいっぱいいます。できれば私たちは①「してもらう幸せ」から②「できる幸せ」そして③「してあげる幸せ」と早く移行していきたい。

便教会新聞 第175号

『リーダー研修会に参加して』

(愛媛県) 新居浜市立新居浜小学校

教諭 眞鍋 裕介

便教会は、教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五一〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七
携帯 090-1215-1222

【編集後記】まだ終活を考える歳じやないかもと思う反面、「次に伝える」、「バトンタッチする」ことや「高齢者になつてどう生き方をするのか」を度々考えようになりました。掃除に学ぶ会も私が初参加した25年前は全国各地で大会が盛んに開催され、勢いがありました。四半世紀が過ぎ、会を牽引していた方々は他界されたり、高齢となり次に繋がる人がなかなか出ないのが現状で、このままが常態化すればやがて糸が切れるのではと心配します。便教会活動も同じ不安を抱えていますが、それに海学園大学の先生とのご縁で教育現場を目指す学生さんに掃除道を発信するチャンスをいただき、活動推進の励みとなつています。ある方が「日本人の生き方は志のリレーです」と仰るのを聞いて頷くと同時に何をどうやるのかと考えました。目に見えるバトンがあるわけではなく、志とは公のためになり、遠く高いところにあり容易に手にすることができないのですが、それに近づく歩みが尊いと思います。掃除に学ぶ活動は正にその歩みそのものであり、少しずつ社会から心の荒みがなくなり、他者を思いやる社会に近づいていきます。後継者に悩む組織はその想い、活動量が足りないからで、後から来るものたちを育てるために自ら下に降りて働きかけていく姿勢が大事だと思います。大人としての生き方は我を通じて人に迷惑をかけるのではなく、自ら下に降りて次に繋がる人を受け入れて育てていくことです。手遅れにならないことを願うばかりです。

高野修滋 拝

私と妻が逆転した。愛媛に戻った翌年の2015年、妻は0歳の息子を連れてこの便教会に参加すると言つた。その時の私は、「いや、こんな小さな子ども連れて行くのは迷惑やけんやめとけ。」と大反対したのを覚えてる。しかし、私の妻は一度決めたら折れない人（この便教会界隈では有名なのであえて名前を出さないけど）なので、息子と2人で電車に乗つて行つてしまつた。翌年には私も巻き込まれ、渋々の初参加となる。それから6年。金曜日、夜行バスに乗つて、海を隔てた島国から便教会のリーダー研修会参加のために意気揚々と愛知県に一人で向かう私がいた。バスの中で2015年を思い出しながら、「人は変わるものの」だと感動と恥ずかしさで可笑しくなつた。

コロナ禍の2年半、愛媛便教会も2020年2月の総会を最後に参考しての掃除会が出来なくなつた。1年近く一人でやる日が続いた。昨年度、新しい学校に転任して数か月したときに、教頭先生と若い先生が

「一緒にやるよ」と言つてくれて、それ以来、基本的に3人でやることができている。二人には本当に感謝している。感染状況が落ち着くと他にも数名仲間を呼んでできるようになつた。学校でやることを許してくれる校長先生も有難い。しかし、一人での掃除会、いつも決まつた仲間との掃除会それが続くと、甘え？惰性？怠慢？のような緩いモヤモヤとした感覚が自分の中にでていることに気付いてしまつた。新しく参加している2人にも、「まあ、いいですよ」と言つてしまふ自分。道具の管理や準備が出来ていなくて、「あれ？」という日もあつた。便教会つてどうだつける？と迷つてゐるまさにそのとき、タイミングよく便教会のリーダー研修の話があつた。リーダー研修翌日は普通に仕事。海外なので早く帰れても夜9時。迷いに迷つたが、これはきっと必死だらうと参加を決意した。

参加してみてどうだつたかは、言わずもがな。3年ぶりの再会だけど、変わらない皆さんのが嬉しくて心が温かくなつた。前夜祭、高野先生や利会長、白鳥さんに自分のモヤモヤしていることをぶつけてみると、しっかりと受け止めて、答えてくれた。今日本イナスの芽を摘み、プラスのスパイラルを

けないのだと感じた。思いやりや、心づかいや、優しさは訓練によって身に付く。「他」に対する行動を徹底して磨くことで「自分が磨かれていくのだとも感じた。きっとこういった気付きこそが小川さんの問い合わせに対する答えなのだと思う。

ができる様になつた気がします。
この便教会から、高野先生をはじめ、素
敵な方々との出逢いがありました。そしてそ
こからまた、新しい人との繋がりがあり、い
ろいろな方面へと広がり、私の生活の一部と
なつているものもあります。

海を渡り、愛媛に戻つてからリーダー研修後一発目の便教会。教頭先生に「今日の磨く音、なんかいつもより優しいですね！！」と言うと、「わかる？」と返ってきて2人が笑つた。その日の教頭先生のトイレはいつも以上にキレイになつていて、振り返りの時に「力じやないことに気付いたよ」と言つてくれたのがとても嬉しかつた。そしてこの11月、不思議なご縁で繋がつた小川さん（旦那さん）から紹介していただいた演劇を観に行く。これもまた今の自分には必然なのだろう。何が学べるか今から楽しんだ。

『好奇心』

非常勤講師
菱川 洋子

「動」の一言です。掃除に学ぶ回数が増えるとともに、生徒と共に感したいたい、教育現場に「掃除に学ぶ」活動を広めたいという思いが強くなつていきました。誘つたからといって、子ども（生徒）が進んでトイレ掃除をすることはまれです。掃除の感動、その意義を繰り返し伝えることで仲間が一人、二人と増えていきました。

平成12年、新しく赴任した高校で、「生徒と一緒にトイレ掃除をする」ことを意識

会議で提案したところ、非難、反対意見ばかりで、反対されるとは全く思つてもいいなかつたので、すっごく落ち込みました。非難のような反対意見は止むことがありませんでしたが、校長先生の「やらせてやれ」の一言で終わりました。学校、教育現場に掃除に学ぶ活動を広めることの困難さを痛感し、「もう止めようかなあ」と弱音も出ましたが、掃除で受けた恩、鍵山相談役からの恩、心願、想いを考えると、止めてはいけない、少しづつがんばろうと力が湧いてきました。

「掃除に学ぶ活動」で学んだこと、気づいたことを受け持ちのクラスで徹底しました。「時を守り、場を清め、礼を正す」簡単なことに思われがちですが、徹底することは難しく、それを継続して習慣化することは更に根気の要ることです。同調してくれる教師仲間も増え、担当する学年全体が整いました。こうなると順調、順風に思われますが、何かをやろうとすると「必ず」反対する人がいますが、先を見通した建設的な意見交換にならなければなりません。

余談になりますが、特に上に立つ人、また（確）力を寺つてゐる人ほど下に争ひる心

（林）方を打つといふ人いと一い隣りの心の柔軟性で将来を考えて欲しいものです。小さなプライドにこだわりが強く、児童性が抜けない大人、老人に接する事がつかりします。

か 掃除に学ぶ会の活動のみで学校に掃除の種が播かれ、発芽し、掃除に学ぶ活動が定着化する期待値はかなり低いと思います。学校に「掃除の灯」を点すには内部から、一人からの実践、発信に頼るのが得策だと思います。掃除に学び、その気づきを教育

活動に活かすことで教師の資質が向上していきます。一人の教師には大勢の子ども（生徒）が従っています。子どもたちは先生の一挙手一投足を見ていて、教師の主体変容は子どもの変容です。学校が変わります。便教会活動は教師が主体となっていますが、その活動を支えてくれているのが掃除に学ぶ会です。掃除に学ぶ会と便教会は車の両輪です。

今まで自分のやつていた掃除は何だったたのだろう。目に見える汚れだけ掃除して、どうして目に見えない汚れは掃除しなかつたのだろう。どうして今まで気づかなかつたのだろう…。『五感をフル活用すると、第六感が反応する』私は掃除を通して学びました。掃除以外でも同じことが言えるのではないかと思います。現在私は、養護教諭を目指している学生ですが、実習やボランティアなどを通して子供たちとかかわることがあります。言葉や症状で訴えてこない子供がいるとき、その子供の抱えている問題や心の中の傷に気付かなければならぬいと思うのですが、なかなか難しいことだと感じています。現場に出るのはまだこれからですが、今回掃除から学んだ、『五感をフル活用すると、第六感が反応する』ことは、これからに生かしていきたいと思います。（この学生さんは教員採用試験に合格されました）

で「掃除の意義、重要性が再認識され、その実践が広まり、深まっていく」ことです。これから教育現場を目指す学生、若い教師、中堅教師、定年間近の教師、教師が変われば子どもは変わる、学校が変わる。学校には校風がありますが、その風はどんな学校であるかを写し出す無形の鏡です。

教育をより良くするにはサボーターが必要です。便教会活動へのご参加、ご指導は大きな力、励みとなります。「トイレ掃除は気づきの宝庫であり、気づきの訓練です」

です。

便教会世話人

便教会との出逢いから早いもので七年近くたとうとしています。私は、どちらかといふより、広く浅くといった感じの選択をしてきたことが多かつたと思います。便教会との出逢いも、職場が変わり、隣が木原先生の席だつたこともあり、私の好奇心も手伝い、思ひ切つて参加したことから始まりました。今は、少しさは、ちょっとしたことに気づくこと

と改めて感謝の気持ちがわいてきました。リーダー研修は、豊田市のオイスカ研修所で行われたのですが、研修以外で、思い出深いことが二つありました。一つ目は、お昼ご飯のカレーライスをいただいた時に食堂にみえたマリアさん（以前、総会で一緒に掃除をしたことがあります）、ご家族で参加されたこともある方です）です。オイスカのみなさんはとても優しく、親しみやすい方ばかりなのですが、なかでも所長の奥さん、マリアさんは、底抜けの明るさと笑顔がとても印象的で、忘れられない人です。また逢えて嬉しい、また逢いたいと思う素敵なおです。もう一つは、オイスカまでは、四人で車で行っていたので、帰りにダメもとで、思い切って中京大学にあ

年齢と共に衰えるであろう体力と好奇心ではあると思いますが、体力の続く限り便教会での経験を積みつつ、好奇心とうまく付き合いながら、生きていきたいと思う今日この頃です。